

浦安市不登校支援基本方針(素案)に対する意見と市の考え

- A：意見を受けて加筆・修正したもの
 B：案に意見の考え方が概ね含まれていたもの
 C：案に意見の考え方が一部含まれていたもの
 D：案に意見の考え方が反映・修正しなかったもの
 E：うち計画案に関連する質問などその他のもの

番号	分類	意見の要旨	対応	市の考え	資料該当箇所など
1	【基本方針】 第1章 1. 目的	不登校期間の子どもたちの心の負担を軽くし、安心して過ごすことができるように、「子供たちの幸せを守る」ウェルビーイングの視点を入れてほしい。そのためには、「不登校から学ぶ」と「地域の助けを借りる」が必要になる。加えてほしいのは、子どもの声を聴くこと。 子どもが思いを伝えられる手立てを考えて頂きたい。LINE でもチャットでも子どもが気軽に触れられる方法を検討し、「みんなの声を待っている」というメッセージを常に届けてほしい。	B	「子供たちの幸せを守る」という考え方については、本基本方針を貫く「誰一人取り残されない支援」という考えの中で捉えています。 「不登校から学ぶ」については、具体的な支援策を考えるうえで大切にしているところです。 「地域の助けを借りる」については、令和6年度から市立小中学校で導入するコミュニティ・スクールとも連携していきたいと考えています。 当事者の声を聴くことについては、令和5年度より、市立小中学校において、オンラインによる「心のヘルスチェック」等の活用も進めているところです。一層の周知を図るとともに、今後の支援を考える中で参考にさせていただきます。	【基本方針】 第1章 1. 目的 (P2) 第4章 本市の不登校支援の基本的な考え方(P5) 第5章 視点に基づく不登校児童生徒支援(P6～7)
2	【基本方針】 第2章 1 不登校児童生徒の推移	数字には表れていない登校渋りや教室に入れない児童生徒も含めて支援を考えてほしい。	B	本方針の目的は「誰一人取り残されない支援」を目指しており、基本方針P6「視点1未然防止」及びP7「2早期支援」の中に含めて考えているところです。	第5章 視点に基づく不登校児童生徒支援(P6～7)
3	【基本方針】 第3章 1 学校及び教育委員会の不登校支援の取組	【学校の取り組み】として「特別支援教育の視点を生かした学級経営・授業づくり」とあるが、その視点とは、「個別最適化」を指すのか？一人ひとりの特性や発達段階に対応できるように、教師への支援が必要だと考える。新しい指導法や学級経営、授業づくりを学ぶために、教師自らが学ぶための機会と費用を用意して頂きたい。	E	不登校支援には、児童生徒と直接関わる教職員の力量形成も大切なことと考えることから、適宜、必要な研修は実施しているところです。	第5章 視点1未然防止(P6)
4	【基本方針】 第3章 2 課題	不登校児童生徒をもつ保護者や家族への支援の具体策はあるのか。カウンセラーや学校教員などのフォローだけでは払拭されない。同じ境遇の保護者との交流や元不登校経験者などの経験談により、縦の関係より横の関係の支援により、心が癒やされる。 このことから、具体策を検討するのであれば、当事者を交えることを検討してほしい。	A	スクールライフカウンセラーへのアンケートでも保護者の悩みを受け止める場づくりが課題であるとの意見があり、P5.3基本方針の参考にしていますが、P8.(5)家庭への支援の部分に、「保護者同士が悩みや情報を共有できる場の設定」を追記しました。	第4章 本市の不登校支援の基本的な考え方(P5) 第5章 視点3社会につながる支援(P8)
5		支援につながっていない児童生徒・家庭への支援について、市内にある民間の居場所や支援団体を把握しているか。情報を収集し冊子等にして提供することで、家庭の選択肢が増えるだろう。	E	今後の具体的な取組を検討する中で参考にさせていただきます。	第5章 視点3社会につながる支援(P8)
6	【基本方針】 第4章 3 基本方針	不登校の原因は多様なため個別対応が必要と考える。学校や行政機関だけでは難しい面もある。市民が多様な形で不登校問題に関わる機運を醸成するために、「(第3の居場所等)市民活動とともに支援を行う」という趣旨を追記してほしい。	E	P5. 3基本方針の2点目において、地域を含めた支援の充実について考えているところです。	第4章 本市の不登校支援の基本的な考え方(P5)
7	【基本方針】 第4章	不登校及び不登校傾向の児童生徒を抱える家庭への支援について、大抵の保護者は、どうしてよいか分からなくなると思うことから、学校から「不登校は、子どもを休ませなければいけないサイ	B	P7～8視点2及び視点3において、具体的な取組を検討する中で参考にさせていただきます。	第5章 視点2 早期支援(P7)及

浦安市不登校支援基本方針(素案)に対する意見と市の考え

- A：意見を受けて加筆・修正したもの
 B：案に意見の考え方が概ね含まれていたもの
 C：案に意見の考え方が一部含まれていたもの
 D：案に意見の考え方が反映・修正しなかったもの
 E：うち計画案に関連する質問などその他のもの

	4 方向性	ンであること」「まずは安心できる家庭で休養を取ることが大切なこと」「十分休ませた後は、学校に戻る、いちょう学級を利用する、民間のフリースクールを利用するなどの支援があること」などの情報提供があるとよい。また、その手順を含め学校内の支援体制の確立をお願いしたい。そのために教員にも不登校児についての理解を深めていただきたい。 学校以外の選択肢がある事、心を壊してまで無理していく必要がないことを広く知らせる事が大切。			び視点 3 社会とつながる支援
8		相談したいと思った時、公的な機関だけでなく、民間のフリースクールも案内&紹介して貰える、「何でも相談所」を用意してほしい。留意点として、「子どもにとって安全&安心な場所」かどうか、方針や外部からの評価方法も示す必要がある。	E	P6～8 第5章の各視点に関する具体的な取組を整理する中で参考にさせていただきます。	第5章 視点に基づく不登校児童生徒支援(P6～8)
9		不登校について、未就学の段階から、児童生徒本人や母親、父親や祖父母などへの正しい知識の伝達や理解促進が必要であろう。	E	P5.4方向性の一体的な支援の具体的な取組を考える中で参考にさせていただきます。	
10		視点1未然防止「新たな不登校を生まない」という言葉は、「不登校」が悪いことのような印象を受ける。不登校の理由はさまざま、既存の学校が合わない、しっくりこない、自分で学習したい、という子であれば、それは「良」としてもよいのではないのでしょうか。	A	視点1～視点3につきましては、取組の方向性として副題を入れていたのですが、このことにより限定的な意味が付随されてしまうことが懸念されることから、副題を削除することとしました。	第5章 視点に基づく不登校児童生徒支援(P6～8)
11	【事本方針】 第5章 視点1	「どのような学校であれば楽しいか、通いたくなるのか」と、子供の声を聴く手立てを考えてほしい。そのためには、地域や市民団体の助けも借りるとよい。また、子供の声を聴く大人は、教師や公認心理師などの有資格者でなくてもよいのではないかと考える。	C	P6.視点1(2)(3)等の具体的な取組を考えるうえで、参考にさせていただきます。	第5章 視点1未然防止(P6)
12		児童生徒が安心して通い、居場所となる学校づくりのためには、マンパワーの拡充や不登校対応スキルの向上のためのサポートが必要ではないかと感じている。	C	今後研修会等を実施するうえで、参考とさせていただきます。	
13		小中学校の入学のタイミングで、不登校支援に関する資料提供があるとよい。	E	具体的な取組を整理する中で参考とさせていただきます。	
14	【基本方針】 第5章 視点1	児童生徒のありのままの姿を受け入れ、心の教育を行ってほしい。全国にはよい実践を行っている学校があるので、それらを参考にするとよい。	E	各小中学校では、特別活動や道徳の学習において取り組んでいるところ です。	第5章 視点1未然防止(P6)
15		書字障がい(疑い含む)の子どもたちへの対応がまだ不十分であると認識している。文字を書くことが苦痛な子どもたちにとって、オンライン授業でギガ端末内のメモ帳を利用することは負担軽減に繋がっている。このような子どもたちへの更なるデジタル活用も是非検討していただきたい。	E	学校教育の情報化を推進する中で、参考にさせていただきます。	
16	【基本方針】 第5章 視点2	不登校は長引くほど学習が遅れ、自信を失い自己肯定感が下がってしまうので、早期対応が必要である。また、一人一人状況が違うことから、個別にオーダーメイドの支援体制の構築を検討してほしい。	B	各学校では、児童生徒の状況に応じて、教育支援シートを作成し、活用しているところ です。	第5章 視点2 早期支援(P7)
17		早期支援として、小学校のうちに適切な支援を行うことが中学校以降の不登校支援で疲弊する教職員を減らすことができると考える。	B	引き続き取り組んでまいります。	
18	【基本方針】 第5章 視点3	中学入学後の進路説明会において、選択肢の幅を広げた説明や資料提供があるとよい。	E	(5)の家庭での支援の中に含めて考えていたところですが、引き続き、具体的な取組を検討する中で、参考とさせていただきます。	第5章 視点3 社会につながる支援
19		不登校になると様々な情報が入りにくくなる。きょうだいで不登校で学校種が違つと対応の違いに戸惑ったりするので、小中で連携した取組となるとよい。	E	(5)家庭での支援として、訪問相談や関係機関との連携の充実を図ってまいります。また、小中学校間などの連携については、引き続き、具体的支援策を考える中で参考にさせていただきます。	(P7～8)

浦安市不登校支援基本方針(素案)に対する意見と市の考え

- A：意見を受けて加筆・修正したもの
 B：案に意見の考え方が概ね含まれていたもの
 C：案に意見の考え方が一部含まれていたもの
 D：案に意見の考え方が反映・修正しなかったもの
 E：うち計画案に関連する質問などその他のもの

20	【基本方針】 第5章 視点3	子供が不登校になると、親の仕事の制限が発生し、収入が減り、給食を喫食することができないので昼食代もかかる。また、フリースクールや民間のカウンセラー、学習支援オンラインツールなどを利用すればさらに費用もかかる。市では、進学費用の補助という理由で中学3年生と小学6年の家庭のみ給食費を無料にしている。また、令和6年1月～3月にも給食費を無料にすることだが、給食を喫食している家庭だけが享受できる支援である。学校へ行けず給食を食べることができない子供のいる家庭へ別途、約6万円の進学費用補助としての経済支援があってもよいのではないか。また、子育て家庭への経済負担軽減のための給食無料化より、一律に、子供がいるすべての家庭に経済支援をお願いしたい。その上で別途、不登校家庭への経済支援が浦安市でも実施してほしい。	E	(5)の家庭への支援を検討する中で参考とさせていただきます。	
21		不登校になっている子どもはもちろん保護者もつらい思いをしていることから、いち早く適切な相談場所へ繋ぐなど不登校家庭を孤立させない支援をお願いする。	B	(5)家庭への支援、(6)支援の継続と関係機関との連携の取組を行う中で、充実した取り組みとなるよう検討してまいります。	
22	【基本方針】 第5章 視点3	不登校ケースには、家庭環境や家族関係、保護者自身の問題などを抱える家庭が多いことから、家族・家庭への支援が重要だと思う。	E	(5)の家庭への支援を検討する中で参考とさせていただきます。	第5章 視点3 社会につながる支援(P7～8)
23	【基本方針】 第6章 1 行動計画	平成15年から18年に取り組んだ千葉県及び浦安市からの委託事業「オープンスクール☆WISH」を記載してほしい。	D	行動計画については、市の主な施策事業について記載しているもので、委託事業についての記載を行っていないところです。	第6章 1 行動計画(P9)
24	【基本方針】 第6章 2 学びの多様化学校(不登校特例校)の設置	特例校を開設するなら、小学校も同時開設し、小中の連続性、一貫性を持たせた方がいいのではないか。2段階を想定しているのであれば、その旨も付記したほうがいい。また定員も、もう少しゆとりをもって多めに想定してはどうか。不登校以前の深刻な行き滞り児童生徒にも対応できたら、と思う。 県下初の先駆的な事業だけに、思い切ったご判断を期待したい。	D	「学びの多様化学校」は、子供たちの状況に応じた特別な教育課程を編成して教育を実施することができる文部科学省の認可を受けた学校となります。本市としては、子供たちが、次のステップへ向かうための足掛かりと中学校卒業後の進路選択、社会的自立に向けた学びを提供することを目的に、まずは義務教育の最終段階となる中学校の分教室型の設置を進めていきたいと考えています。	第6章 2 学びの多様化学校(不登校特例校)の設置(P9)
25		対象者が、進学や学びたい意欲はあるが、学習の遅れや対人関係が要因で教室に入ることのできない生徒だけなのは勿体無い。子供が選べるようになるのが理想的です。	D		
26		公設民営にすることで多様な学びが展開されるのではないかと。不登校の状況や今の学校の現状を理解したうえでの学びの多様化学校を期待している。	D		
27		学びの多様化学校に誰でも通えるようにするために、次のことを提案する。 ① on-line 学習を充実させ、家に居ながら学べること、 ② 何を学びたいか自分で週の予定を立てられるように支援していくこと、 ③ ②の予定を立てるための選択肢を増やすために、地域の活動団体の協力を得ること。 スポーツ(卓球や合気道、パークゴルフ等)、園芸、陶芸、人形劇、合唱、英語サークル、書道等々。月曜日はゴルフをして、火曜日は学校に行き、水曜日は人形劇・・・など ④ 友達に会いたいときは、いつでも登校できる部屋を用意する。 ⑤ 部活(サークル活動)あり。希望すれば、新しく立ち上げられる。 ⑥ 子どもも親も立ち寄れる校内カフェを用意する。N中やN高といった先事例がある。 ⑦不登校特例校として、仙台市の「ロリポップ学園」名古屋市の教育委員会の取り組んでいる「PBL とイェナプランを参考にした自由進度型学習などが参考になると思う。	E	学びの多様化学校の設置検討を進める中で、今後の具体的な取組や支援を検討する中で、参考とさせていただきます。	

浦安市不登校支援基本方針(素案)に対する意見と市の考え

- A：意見を受けて加筆・修正したもの
 B：案に意見の考え方が概ね含まれていたもの
 C：案に意見の考え方が一部含まれていたもの
 D：案に意見の考え方が反映・修正しなかったもの
 E：うち計画案に関連する質問などその他のもの

		「学びの多様化学校」の中に、【つながる担当課】を設置し、不登校になったら、(本人と親が望めば)担当課にネットで繋がり、必要に応じて、居場所情報などを入手することができ、希望に合う場所があれば出向くことができる。そこでは、地域の助けを借り、市民団体や市民サークルなどに「不登校の子どもウェルカムな団体」を募集する。場を提供してくれる大人が集まるプラットホームを用意することで、「まちぐるみで子どもたちの育ちを支える」ことができるようになる。全ての不登校のこどもと親の拠り所となるような、そんな「学びの多様化学校」になることを期待している。			
28	【基本方針】 第6章 2 学びの多様化学校(不登校特例校)の設置	フリースクールのような自由な場所でも登校と認めてもらえたら、多くの親子が安心できる。ただ、費用面で高額だったり、運営側が持続不可能だったりするので、学校と並ぶ選択肢として選べるよう、市からの援助が必要と感じる。	E	今後の具体的な取組や支援を検討する中で参考とさせていただきます。	第6章 2 学びの多様化学校(不登校特例校)の設置(P9)
29		不登校児童生徒は感受性の豊かな子が多いと聞くので、行政が作った雰囲気を感じて緊張してしまうのではないか。	E		
30		自閉アスペルガー(ASD)のような障害を抱えた子供たちも、今回の浦安市特例校の受け入れ対象になるのか。	E		
31		AI技術を用いた個別最適化学習の導入を提案する。AIによる学習支援は、生徒一人ひとりの特性・個性などのニーズに応じた教育内容の提供を可能にし、学習スタイルや進度に合わせて調整もできる。 また、コミュニケーション・対話の力を育む点が懸念されがちだが、それらの課題へも活用することで効果が期待できる。誰一人取り残さない教育の為に、最新技術の積極的な活用を検討いただきたい。	E	学びの多様化学校に限らず、学校教育全体で、個に応じた支援、個別最適な学びを検討する際に、参考とさせていただきます。	
32		第5章視点1の未然防止の観点から、現在の学校の配慮とともに新しい取り組みを、学びの多様化学校から発展させるのが良いかと思う。 多様化学級(校)には、理数系、自然科学系、音楽系、美術創作、プログラミング系、食物料理数系などを軸にクラス編成し、興味を発展習得する為に必要なものとして算数、国語、英語を学べるように指導していく学校にしてみるなど 新しい学校あるいはカリキュラムの構築があつて良いのではと思う。	E	「学びの多様化学校」の教育課程の編成にあたっては、文部科学省や県教育委員会の助言等を踏まえながら、本市の学びの多様化学校の設置検討を進める中で、参考とさせていただきます。	
33		不登校の生徒に焦点を当てるのではなく教育の場有り様をもう一度考えてみることで、登校したくない、出来ない、と思っている子が引け目を感じることなく教室に参加する、また、今までの授業に問題なく参加していた子供達にも選択肢ができて生徒たちの間に線引きをせず、学びの多様化を進めて頂きたいと思う。	E	不登校支援の基本方針に留まらず、学校教育全体のあり方に関するご意見として、参考とさせていただきます。	
34	個性的な小さな市内誰でも通える学校として、全く新しい学校を誕生させてみてはどうか。例えば、園小中連携校として4、5歳から15歳までの異年齢学級とする個別自律学習で、それぞれが自分のペースで学べる、そんな学校があれば、子どもも大人もワクワクすると思う。 将来生きていく上で必要な力は何か、保護者だけでなく、地域住民も含め、立ち上げから皆で考えてつくる学校、不登校でも、不登校でなくても希望すれば誰でも入学できる「小さな学校」を視野に入れ、全く新しいカタチのコミュニティ・スクールとして、浦安市で誕生させてみてはどうか。	E	学校教育全体のあり方に関するご意見として参考とさせていただきます。		

浦安市不登校支援基本方針(素案)に対する意見と市の考え

- A：意見を受けて加筆・修正したもの
 B：案に意見の考え方が概ね含まれていたもの
 C：案に意見の考え方が一部含まれていたもの
 D：案に意見の考え方が反映・修正しなかったもの
 E：うち計画案に関連する質問などその他のもの

35	【基本方針】 第6章 2 学びの多様化 学校(不登校特 例校)の設置	新しい多様な学びの学校にあってほしい役割は、①「コーディネートの役割」、いま困っている保護者や子どもたちに、気軽に相談ができ、選択肢を掲示してくれる場所としての機能がこの学校に欲しいと思う。②多様な学び・学習形態の保障。オンライン、学習アプリ、実地研修、本、ドリル、場所、やり方、どの学習方法で学んでも良いという学習形態を保障してもらえらる場所になればと思う。③市内公共施設や市民への周知・啓蒙。学校に行けない子どもたちが少しでも学習する機会を保障してほしいと思う。学校と公共施設、民間の団体が子どものたちのために連携し、必要な支援が行き届くようになってほしい。	E	今後の具体的な取組や支援を検討する中で参考とさせていただきます。
36	【基本方針】 本計画全体について	中学生の定期試験等のテスト受験について、心理的に不安、保護者の付き添い、担任の時間的都合などで思うように受けられない現状がある。是非とも対策を講じてほしい。	E	今後の具体的な取組や支援を検討する中で参考とさせていただきます。
37		千葉県で最初に学びの多様化学校が設置される浦安市に大変期待をしている。	E	今後の具体的な取組や支援を検討する中で参考とさせていただきます。
38		浦安市がこのように市民の声を聞いてくれることは有りがたい。是非対面で意見交換できる場を数多く用意して頂けたら有りがたい。	E	今後の具体的な取組や支援を検討する中で参考とさせていただきます。
39		このような学校づくりが今ある学校でも行われ、不登校で苦しむ子供を作らないようになることを願っている。	E	今後の具体的な取組や支援を検討する中で参考とさせていただきます。
40		市の基本方針、先見的、意欲的で、でとても素晴らしいと受け止めた。「学びの多様化学校」と位置づけ、「個性を尊重し」、「自分の長所に気づき」「自己肯定感を高め」、「未来を自分たちで想像していく力の育成」に努める、という基本理念は、明治以来の日本の集団優先教育の歴史を大きく変える契機にもなりうると考える。	E	今後の具体的な取組や支援を検討する中で参考とさせていただきます。
41	学校の先生方への支援策として 学校は普段通っている子どもたちがより楽しい場所になるように先生方の力を発揮していただき、他で学びを必要としている子にはその先の方が見るような連携ができれば先生方の負担も少なくなるのではと思います。戻りたいときに戻れるように連携を強めてほしい。	E	今後の具体的な取組や支援を検討する中で参考とさせていただきます。	
42	学校教育全体 について	子供が小学校に入学当初、先生に相談するのは、モンスターペアレントに思われないか心配でハードルが高かった。小1の娘がけがをして帰ってきた時、学校に話すか迷い、息子が行っている児童センターの先生に相談して学校に連絡することを決めたことがある。地域の児童センターや公民館、公共施設も相談場所となることから、不登校児童生徒の居場所として常設するとよいのではないかと。	E	今後の具体的な取組や支援を検討する中で参考とさせていただきます。
43		再度学校関係者及び一般の方等の意見を参考に総ざらいして、生徒、保護者、先生、関係者、地域にとって楽しい場所に!!また明日も行きたいな～わくわくする場所に。提案です。 ○休憩時間 ○シエスタ導入 ○校則などをシンプルに! ○学校指定のものを少なくする。 ○異年齢のふれあい ○高校生や大学生等との絡みも必要! ○受援力を高めるカリキュラム作り ○学校行事の見直し ○多職種を校内に採用。 ○保護者向けに不登校についての理解 ○現在登校している児童生徒について、先生との個別面接等を実施。 ○個別支援計画を全生徒、児童へ ○荷物の軽量化 ○ことばの教室 ○ノー宿題デー	E	今後の具体的な取組や支援を検討する中で参考とさせていただきます。

浦安市不登校支援基本方針(素案)に対する意見と市の考え

- A：意見を受けて加筆・修正したもの
 B：案に意見の考え方が概ね含まれていたもの
 C：案に意見の考え方が一部含まれていたもの
 D：案に意見の考え方が反映・修正しなかったもの
 E：うち計画案に関連する質問などその他のもの

44	学校教育全体 について	特例校を開設するなら、小学校も同時開設し、小中の連続性、一貫性を持たせた方がいいのではないか。2段構えを想定しているのであれば、その旨も付記したほうがいい。また定員も、もう少しゆとりをもって多めに想定してはどうか。不登校以前の深刻な行き渋り児童生徒にも対応できたら、と思う。県下初の先駆的な事業だけに、思い切ったご判断を期待したい。	E	今後の具体的な取組や支援を検討する中で参考とさせていただきます。
45		浦安市の不登校児童生徒数が全国に比して少ないのは、市独自の施策もあると思うが、市民や地域の温かさや文化資源の豊かさなどもあると考える。不登校に焦点を当てるのではなく、一斉学習や大勢の前で注意をするなどの学校で当たり前に行われていることについて教育の場のあり様を見直してみるとよいのではないかと。また、異年齢学級や通知表の廃止などの実験校を設置してはどうか。	E	今後の具体的な取組や支援を検討する中で参考とさせていただきます。
46		子どもが前のめりになるような学習環境を整えることが先決のように思う。	E	今後の具体的な取組や支援を検討する中で参考とさせていただきます。
47		ゆとりのある時間割を編成できるとあるが、これを通常の学級でも取り入れていただきたいと個人的には強く思う。	E	今後の具体的な取組や支援を検討する中で参考とさせていただきます。